

一般助成 子どもの健やかな成長を願う事業(つながり・かかわり)

『2020パラアートTOKYO』第7回国際交流展」事業

「障がいを超え、国境を越える」をテーマに バーチャルギャラリーを活用したアート展開催

障がい者の文化・芸術の拡大を図るとともに、障がい者に対する理解や障がいのある児童の育成支援や社会参加を促すため、障がい者の芸術作品の展示や芸術文化の活動紹介に取り組んでいるのが日本チャリティ協会である。コロナ禍という困難な状況のなか、同団体では7回目となる国際交流展を開催し、国内外から多くの賛辞が寄せられた。



「2020パラアートTOKYO第7回国際交流展」を告知するチラシ



作品が展示された会場には多くの人々が訪れた

障がい者スポーツがパラリンピックなら 障がい者アートはパラアートの呼称で

公益財団法人「日本チャリティ協会」は、1966年の設立以来、福祉文化の育成振興を理念として、障がい者や高齢者に向けた多彩な事業を展開してきた。なかでも障がい者の芸術(アート)活動に力を入れ、「東京都障害者総合美術展」やパラアートスクール(障がい者のカルチャースクール)を始め、障がい者の芸術文化活動を積極的に推進し、社会参加への支援を30年以上にわたって継続して行っている。

その一環として、同団体では、障がい者によるスポーツの祭典が「パラリンピック」と呼ばれていることにちなみ、障がい者による芸術文化を「パラアート」として根付かせるため、2009年から障がい者の芸術活動に対して「パラアート」という呼称を使い始め、さらにそれをアジアから国際的に

に発信、拡大しようという企図のもと、日・中・韓を軸にした「パラアート(障がい者芸術)国際交流展」を開催してきた。

こうした経緯を踏まえ、残念ながら新型コロナウイルスによって東京2020オリンピック・パラリンピックが延期となったため、同時開催することはできなかったものの、障がい者の幅広い活動とその作品の社会的な認識の国際的拡大を図るとともに、諸外国の障がい者との文化交流を支え、芸術文化の育成に寄与することを目的に、同団体では東京都が主催する「第35回東京都障害者総合美術展」の共催事業として、「2020パラアートTOKYO第7回国際交流展」を開催することにした。

なお、「第35回東京都障害者総合美術展」は2020年9月2日～6日にわたり、東京の西武池袋本店7階の特設会場で開催され、たくさんの応募作品の中から約180点の入賞・入選作品が展示された。

国内外から集まった障がい者の作品を 展示するパラアート国際交流展開催

「第35回東京都障害者総合美術展」に先立ち、8月19日～23日に西池袋にある東京芸術劇場5階ギャラリーを会場に、同団体、および東京都が主催する「2020パラアートTOKYO第7回国際交流展」が開催され、国内外の障がい者の絵画、書の入選作品268点が展示された。

開催初日には、共催の豊島区の庁舎内にある区議会会議場で、「日本の障がい者アート(福祉)の起源として、未来へ」と題する記念シンポジウムが無観客で実施(オンライン配信)されたほか、POSCの助成を活用してWEB上にバーチャルギャラリーを開設し、新型コロナの影響で来日や来場いただけない国内外の出品者、関係者や世界の方々に向けて、作品やシンポジウムが鑑賞、視聴できるように配慮した。なお、会期終了後もそれらはWEB上

に継続公開されている(<https://virtualgallery.paraart.jp/2020/>)。また、同団体では、2020年より、これからの社会を形成していく子どもたちを対象にパラアートジュニア賞を設け、目標に向かってモチベーションを上げることができるよう、サステイナブル(持続可能)な活動支援を行っている。

コロナの影響により、多くの施設で児童の制作活動が縮小され、また海外からの輸送に制限があり、作品収集には非常に苦慮したが、バーチャルギャラリーの効果もあり、「豊かな感性と素晴らしい作品に感動した」、「色々な国の障がい者の作品が一堂に集まり、バラエティに富んでいて楽しかった」といった感想がSNSなどに多く書きこまれたほか、終了後には特別支援学校の教員や学生からも障がい者のアートフィールドへの関心が寄せられたという。



国内外の障がい者の絵画や書を展示



助成金を活用したバーチャルギャラリー

助成団体:公益財団法人 日本チャリティ協会

www.charitykyokai.or.jp



バーチャルギャラリーの開設で、WEB時代の若い親たちにも反響

遊技産業としての特性、地域性を生かして、よりよい地域社会のためにできることを考え、公益性のある事業に助成するというPOSCの意義ある活動に対して敬意を表します。児童に対するの育成活動支援は継続により成果が現れると思いますので、継続事業に対しても適宜、助成を拡張いただき、財政力の弱い団体へのより一層の支援をお願いいたします。

公益財団法人 日本チャリティ協会
会長 高木 金次さん